

## 第1回めいほう協議会 記録

### ○会長挨拶

初代校長から地域とのつながりを大切にしたいとの話があり、開校以来、様々なつながりを持ってきた。めいさぼ先生などを通して授業の手伝いなどもしてきた。教育という社会を支える仕事に参加できて、大変うれしく思っている。

### ○校長挨拶

- ・ 大師高校より異動し4月に着任した。自分のミッションは様々な生徒への支援であると考えている。
- ・ コロナ感染症も落ち着き、今年度の入学式はコロナ前の形で実施し、校外研修（遠足）などの行事も普通どおりに実施できた。
- ・ 今年の入学生は、コロナ感染症のために、中学時代の3年間で普通の学校生活ができていない。そのためか、欠席が多いなど学校に行きづらい傾向がある。
- ・ 今年度の入学者は170名程で、午前部20名、午後部100名程の欠員状態にある。職員配置は定数よりも多く配置され、非常勤講師時間も多く担当されている。
- ・ これからは、
  - 生徒が来たくなるような学校。
  - 子どもが横浜明朋高校に通っていることに保護者が自信を持てる学校。
  - 地域の人々から認められる学校。
  - 教職員にとって働きたくなる学校を目指したい。

### ○めいほう協議員、職員紹介

#### ○令和5年度学校評価報告書目標設定について各グループより説明

##### 1. 教育課程・学習指導

- ・ 生徒の学習や知識の定着に差がある。
  - ・ ICT機器の活用が上手く展開できていない。
  - ・ 生徒の主体的な学びとその評価方法。
  - ・ 生徒の自己肯定感を高めるための授業展開。
- などについて考えたい。

##### 2. 生徒指導・支援

- ・ 個々の職員が問題を抱えることなく、学校全体のチームとして対応し、地域とも連携して様々な問題に対処したい。
- ・ 不登校傾向にある生徒、学校に來れない生徒が多い中で、生徒の抱える問題を改善できる活動を続けたい。

- ・生徒が自主的に参加する行事や部活動の活性化、ボランティア活動など授業以外活動で生徒の自己肯定感や学校への帰属意識を高めたい。

- ・外国につながりを持つ生徒が多くいる中で日本文化とのかかわりを大切にする活動に力を入れたい。

### 3. 進路指導・支援

次のような事項を問題点、改善点として取り組んでゆきたい。

- ・卒業生の進路先の区分で、その他に区分される生徒が毎年一定数存在する。

- ・生徒が第一希望の進路希望を実現できるように目指しているが、各年次で行っている進路ガイダンスが次年度に繋がっていない。

- ・今、何をしなければいけないのかが、生徒自身に自覚できていない。

- ・専門学校の AO のエントリーや就職について自分のこととして活動できている生徒が少ない。

### 4. 地域等との協働

- ・ボランティア活動、地域清掃などを活性化したい。

- ・あーすぷらぎの多文化共生チームとの協働で、外国につながる生徒が地域とつながる活動を拡充したい。

- ・地域清掃などを通して、自治会との協働をはかりたい。

- ・ホームページなどを活用して、地域での本校の理解を進めたい。

### 5. 学校管理・学校運営

- ・生徒の学習環境の整備をすすめる。

- ・1、2年次の HR 教室にはモニターを整備できた。今後は3年次の教室や特別教室への設置、クロムブックの活用を図りたい。

- ・校内の物品の管理・廃棄・整理をしながら生徒が活用できる場の確保を工夫したい。

- ・昨年からの防災についての指示があり、本校も災害時の避難場所となった。今後避難場所としての活用について研究・相談をしてゆきたい。

- ・コロナ感染症のため、ここ数年間、地域の防災訓練に生徒が参加できていないため、今年度以降、地域防災訓練への生徒の参加を考えたい。

### 6. 事故防止

- ・事故防止についての研修を計画的に実施している。

- ・校内業務の効率化の観点から作業の OA 化、Teams（アプリ）の活用について研究する。

#### ○協議員より意見（発言）

A. 地域清掃の話題が出たが、日程は、11月11日10時から11時頃、当日ダイエー（イオン）の前に集まって活動している。用具は用意してあるので生徒でも参加可能。事前に連合自治会の事務局に連絡すると良いのではないか。

- B. 連合自治会は毎月第四日曜日の 10 時から打ち合わせをしているので、学校からも参加してみてもどうか。
- C. 以前は子供食堂に参加してもらっていた。8月の地域の夏祭りに音楽部やダンス部の参加を考えてみてはどうか。学校として、ブースも出店できる。連合自治会の事務局との連絡ルートを作ってみてはどうか。
- D. 保護者としても、夏祭りへの参加は良いことだと思う。
- E. 高校ではいろいろな学び方ができるという事を広く知らせてみてはどうか。SC や SSW との連携とともに、小中の連携だけでなく、小中高の連携が身近なイメージとして大切ではないか。
- F. 高校では ICT 機器の活用をどのようにしているのか。小学校と高校の視点の違いを相互に研究していきたい。
- G. 小学校では地域防災の打ち合わせが毎月あるが、高校との情報共有ができるとよいと思う。
- H. 外国につながる生徒はどのくらい在籍しているのか。小学校では言葉の専門職員の配置が少ない。

○職員より補足発言

- ・外国につながる生徒は、各年次 20 名以上いる。多文化教育コーディネータの配置があり、授業補習の他、日本文化のあそびやゲームをとおしての言語活動と取り出し授業を行っているが、まだ手探り状態である。
- ・家庭に対するサポートについては、いろいろな問題が含まれていて、SSW の活用が大切になっている。
- ・生徒はコロナ感染症の影響で、中学時代に部活動が低調だったため、高校での部活動加入率が低くなっている。

○次回開催は、10月18日水曜日、授業見学も予定している。

15時15分閉会